

ボーリング柱状図

調査名

ボーリングNO.

事業・工事名

シートNO.

ボーリング名	B-No.5		調査位置			北緯	36° 59' 38.8500"			
発注機関	栃木県 大田原土木事務所				調査期間	2008-12-24 ~ 2009-01-05		東経	140° 09' 28.5800"	
調査業者名					主任技師			現場代理人	コア鑑定者	
孔口標高	272.50 m	角度		方向		地盤勾配		使用機種	試錐機	
総掘進長	6.00 m							エンジン	ハンマー落下用具	

標尺	層高	厚度	深	柱状図	土質区分	色	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m)	標準貫入試験				原位置試験	試料採取	室内掘進							
												深度	10cmごとの打撃回数	打撃回数	貫入量										
(m)	(m)	(m)	(m)								測定月日	(m)	0	10	20	30	(cm)	深度	試験名および結果	深度	試料番号	採取方法	内試験	掘進月日	
1					崖堆積物 (Ti)	暗褐色			最上部10cm間は軟質な有機質火山灰土が主構成体となる。 以深は崖堆性細粒土分と砂分を主体に崩落岩片を多量に混入し、非常にルーズな礫混り土砂状を呈す。 岩片はφ50mm内外を主体とし、コア長5~10cm(推定φ150~300mm)を混在する。 GL-3m以深、幾分か砂分の含有頻度が上昇する。 GL-3.8m付近にコア長17cm(推定φ500mm内外)の崩落岩塊を認める。				1.15				6	30							
2						灰							1.45	1	2	3	30								
3													2.15				5	30							
4	268.50	4.00	4.00		溶結凝灰岩 (Vt)				母岩自体に新鮮さが伺え、コアは長さ70cm以上の棒状を主体に採取される。 硬度は「金属音を発す」区分に当る。 風化・変質は目視上、見当たらない。 稀にφ5mm内外の火山礫を認める。				2.45				2	30							
5						灰							3.15				14	30							
6	266.50	2.00	6.00										3.45	3	4	7	30								
													4.00	50	0		50	0						12/24	
													5.00	50	0		50	0							
													6.00	50	0		50	0						01/05	